

〔第33回〕

GSRC seminar

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

慢性疾患病態形成における 細胞老化の役割

細胞病態研究部

杉本 昌隆_{部長}

2025年2月26日(水) 15時00分～

第1研究棟2階大会議室

細胞老化は古くからがん抑制機構として知られていたが、近年のセノリシスモデルを用いた研究により、老化細胞が組織老化や慢性疾患の病態に関与することが明らかとなり、老化細胞を標的とした疾患治療戦略が注目を集めている。

当研究チームは、肺組織における細胞老化に着目し、老化細胞と肺の老化・疾患との関係について研究を進めてきた。これまでの動物モデルを用いた解析により、肺組織の老化細胞が呼吸機能低下を引き起こし、肺気腫などの呼吸器疾患の病態を悪化させることを明らかにした。

さらに最近の研究から、老化細胞が肺組織の修復を阻害することが新たに判明した。本セミナーでは、老化細胞による肺組織修復への影響や肺気腫病態への関与について、未発表データを中心に紹介する。

座長：運動疾患研究部 細山 徹 副部長

連絡先：GSRCセンター長室(内線5002)